

# 寺町地区にまつわるストーリー

## 熊谷家住宅

熊谷家は問屋と金融、仲買、製塩を業とし、萩藩御用達として栄えた豪商です。「熊谷家住宅」は、熊谷五右衛門が江戸時代中期の明和5年(1768)に新築した主屋・離れ座敷・本蔵・宝蔵の4棟が国の重要文化財に指定されています。特に主屋は4つの建物の中でも大規模で極めて質が良く、意匠も洗練されており、江戸時代後期における地方豪商の富を表しています。



## 熊谷家住宅庭園の見どころ

### 影向の松

能や歌舞伎の舞台の背景に描かれている松の形に造形しており、昔はこの影向の松を舞台に、毛利のお殿様をお迎えして、能が演じられていました。



### 庭木の仕立て



庭木は丸、四角、丸、四角の形の順で仕立ててあります。中でも大きい四角の木は「ホルト」といわれて「ポルトガル」から来た珍木です。萩市内には図書館の庭の東に自然の大木があり、その他にも数本あります。ヒイラギの木は樹齢が古いためか棘の無い葉もあります。

※マツは枝の一つ一つの塊を丸、全体としては三角に形取られています。

庭の敷石は色んな形があるよ!



## 亨徳寺 三門

亨徳寺の三門は資料によると元禄8年(1695)浜崎町の町人によって建立、寄進されたもので、大正10年(1921)に火災にあったが門は罹災を免れました。

建立年代が明らかな遺構として貴重です。萩市指定有形文化財。



三門の扉には孔雀と鳳凰の彫刻があり、2羽が抜け出し喧嘩をして、くちばしと足がなくなったという伝説があります。



## 旧保福寺の身代わり地蔵

むかし、ある商人の美しい奥さんが、一人の男の子を生んだ後、すぐに亡くなってしまいました。そこで乳母を雇って、子どもを育てていたのですが、人の勧めで後妻を迎えました。

その後妻にも男の子が生まれ、乳母は二人の男の子を連れて、毎日のように、保福寺の地蔵尊の前で遊ばせていました。月日が経つにつれて、後妻は我が子可愛さのあまり、先妻の子を憎み、この子がいなければ、我が子が家を継げるのにならぬようになりました。

ある日、後妻は、焼け火箸を持って、先妻の子の顔に突き刺しました。あわれにも、子どもは、出血がひどく、その場に倒れて、息を引き取ってしまいました。後妻は、驚いて死んだ子どもを布団の中に寝かせて、病気のようにつくっておきました。ところが、夜が明けると、不思議なことに、死んだと思った子どもは、元気に起き上がって出てきました。



その日、乳母は、二人の子どもをつれて、いつものように、保福寺の地蔵尊の前に来ると、地蔵尊は地面にころがっていて、傷ついた顔には、血のようなものが流れていました。誰かのいたずらかと思いながら乳母は子ども達と一緒に地蔵尊の顔を洗い、元の台座に戻し、家に帰って、後妻にこの話をしました。

すると、後妻は、わなわなと身をふるわせて「私が殺した子どもは、地蔵尊であったか。地蔵尊が子どもの身代わりになられたに違いない。」と深く反省しました。それからは、後妻は、生まれ変わったように、優しい善人になりました。



八江萩名所図画(江戸時代の絵図)にも描かれている保福寺

## 施設のご案内

### 熊谷美術館

熊谷家所蔵の文化資料の保存及び公開を目的として開館。萩藩の御用商人・熊谷家代々当主ゆかりの品々の他、現在作家の美術作品なども展示している。



住所: 山口県萩市今魚店町47  
電話: 0838-22-7547  
入館料: 一般700円(560円)、18歳以上学生500円(400円)、高校生400円(320円)、中学生300円(240円)、小学生以下無料 ※( )は団体料金  
開館日時: 詳しくは、ホームページをご覧ください <https://www.hagishi.com/> (萩市観光協会)

### 光國本店

幕末創業。明治維新からの流れを持つ萩の特産品「夏蜜柑(なつみかん)」を使って、ほろ苦い皮の風味を生かした夏みかん菓子を製造・販売。素材にこだわり、昔ながらの独自の製法で、「懐かしい味」をひとつひとつ丁寧に手づくりで仕上げている。



住所: 山口県萩市熊谷町41番地  
電話: 0838-22-0239  
営業時間: 9:00~18:00 定休日: 不定休

### 木のおもちゃ壱・MOKU

組み木のおもちゃを製造・販売。国産広葉樹のトチ、ブナ、ナラ等の板を一つ一つ電動糸のこで切り抜き、全て手作業で仕上げている。ほんわり温かい組み木作品を、手にとって選ぶことができる。萩の市花である椿の精(MOKUのキャラクター)の看板が目印。



住所: 山口県萩市熊谷町33番地  
電話: 0838-21-7729 (ギャラリー) 0838-26-2829 (工房・商品に関するお問い合わせ)  
営業時間: 10:00~17:00 定休日: 水曜日

### かねや金子神仏具店

寺町の中央に立つ神仏具店。形の美しさにこだわり、職人技で仕上げるオリジナル仏壇の他、神輿、仏具、神具の修理や、塗り替えも手がける。工芸品やお香、四季折々の和風小物も取り扱い、立ち寄りやすい雰囲気のお店で、贈答品や進物を選ぶことができる。



住所: 山口県萩市北古萩72番地  
電話: 0838-25-1611  
営業時間: 9:00~18:00 (冬季17:30) 定休日: 第1、第3日曜日

## 寺町の植物

### 端坊のソテツ

大正時代に萩城内から移植されたといわれる。

### 多越神社のフジ

江戸時代より名所と知られている。

### 広雲寺のシダレザクラ

山門前のしだれ桜が美しい。見頃 3月下旬

### 多越神社のサクラ

鳥居から続く桜並木が美しい。

## 萩まちあるきマップ

# 寺町地区 おたからマップ



萩城下町の北側につくられた寺町地区は、三角州の中では最も標高が高い砂丘の上に立地しており、今も20あまりの寺院や墓地が密集しています。広い墓地を囲む塀越しに、隣接する寺院の高い屋根がそびえ、迷路のように入り組んだT字路やL字路も見られます。

寺院には高い塀と広い境内があり、戦や災害などの有事の際に防御したり避難したりするのに適しているため、寺町地区は、たくさんの兵士や住民が集まる場所としての機能を持っていたのではないかとされています。

今も、寺町の特徴が色濃く残るまち並みを歩いてみませんか。

## 寺町へのアクセス



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩まちじゅう博物館 おたからWEBサイトでチェック!! [www.city.hagi.jp/site/machihaku/](http://www.city.hagi.jp/site/machihaku/)



編集発行 | 萩市仏教会 イラスト・デザイン | nating design  
萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

令和2年度文化庁文化芸術振興補助金  
(地域文化財総合活用推進事業)



Hagi Machijyu Hakubutsukan  
萩まちじゅう博物館

# 寺町

## おたからマップ



### なぜ、この辺りにお寺が集まっているの？

毛利のお殿様は、関ヶ原の戦いに敗れて広島から萩へ移る時、家来の武士に加え、お寺も連れてきました。初期の城下町絵図には、この辺りに集中してお寺が置かれたことが記されています。

地形から見ると、寺町の辺りは三角州の中でも比較的標高の高い砂丘になっています。砂丘は、海の風や波が吹き上げた砂によって、長い時間をかけてできました。

「もともと埋葬地だった」「萩城の出城のような役割で、有事に兵が集まれるようになっていた」など、諸説ありますが、いずれも証拠となる資料はなく、定かではありません。

### 寺町にまつわる小話をご紹介します

#### 山伏の碑

山伏の碑は、熊谷家の角にあります。山伏の兼道秀太郎は、諸国行脚の途中、たまたま今魚店町に立ち寄りました。ちょうど住吉祭りの時で、山伏は今魚店町の山車が先頭になる籤が当たると約束しましたが、はずれてしまいました。町民たちは腹を立て、山伏をここに生き埋めにしました。昭和30年(1955)山伏の霊を慰めるために、碑が設置されました。なお、山伏の墓は、この近くの梅蔵院にあります。



#### 久原房之助

萩市の名誉市民第1号。唐樋町で生まれ、幼少年期を熊谷町で過ごしました。日立鉱山を興し、現在のJK金属(ENEOSグループ)を創業しました。下松に日本汽船笠戸造船所を開業し、現在、新幹線電車の車両を製作している日立製作所笠戸事業所の基礎を作りました。



萩出身の実業家として様々な貢献をしました。多越神社には、久原房之助が書いた「郷社」の石碑があります。

#### 常念寺表門

表門は京都聚楽第の遺構であったと伝えられるもので、毛利輝元が豊田秀吉から与えられ、伏見の毛利邸に移築していたものを、さらに輝元が萩城築城前に、同寺を宿所にした縁によって寛永10年(1633)常念寺の表門として移築寄進したものです。(国指定重要文化財)



### おすすめお散歩ルート



寺院や神社は、神聖な場所です。誰かのお宅に伺う時のように、相手に失礼にならないよう、マナーを守って静かに、お参りをしましょう。寺院によっては拝観できないところもあります。

#### 凡例

- まあるバス西回りコース
- まあるバス東回りコース
- まあるバスバス停
- 駐車場
- 公衆トイレ
- コンビニエンスストア
- カメラスポット (表紙のイラストがみられる)

